

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 あおぞらOlive

公表日 令和8年2月22日

利用児童数 11名

回収数 11名

		チェック項目	回答				ご意見	ご意見を踏まえた対応
			はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	100%					
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	82%	9%		9%	現在の職員数や専門性は把握できていません。表などあればわかりやすいです。	スタッフが所持している資格等を周知し、今後も法令遵守に基づいた配置を行い、日々の業務を安全に行ってまいります。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	91%			9%		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	100%					
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	100%				何人の方がどの資格(専門性)を持って支援していただいているのかわかりません。	スタッフが所持している資格を周知し、専門性を活かした支援を行ってまいります。
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	100%					
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画(個別支援計画)が作成されていると思いますか。	100%					
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	100%					
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	91%			9%		
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	91%			9%	いろんなことを考えて活動してくれている。こどもが飽きないように。	今後も年間行事や新しい活動を取り入れながら活動プログラムを立案してまいります。
	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	18%	9%	18%	55%	障がいのない子との交流はあまりしていない様子はさすがに難しいと思う。犬や動物と交流できていて嬉しいと思う。	公園や児童館での活動の機会も増やしてまいります。
保 護 者 へ の 説 明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	100%					
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	100%					
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	36%	18%	9%	36%		
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていますか。	100%					
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	100%				面談で細かいところの話し方や相談する機会があつて良かった。	今後も年に2回のモニタリング、送迎時のお話しなどで、お力添えできるよう努めてまいります。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	100%					
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	18%	18%	27%	36%	父母との交流はないが、特に問題ない。	保護者間の交流を求められている方、求めている方、どちらもいらっしゃるの、意見を聞きながらコロナウイルス流行前に行われていた保護者会の再開について検討してまいります。
19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	82%			18%			

	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	100%					
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	91%	9%			毎月の会報が楽しみ。行事予定は後から知ることが多いかなと思う。	今後もあおぞらOliveだよりの発行を通して活動の様子をお伝えし、行事予定に関しましては早めにお伝えしてまいります。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	100%					
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	73%	9%		18%		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	91%			9%		
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	73%			27%		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	91%			9%		
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	100%					
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	91%			9%	すごく楽しみに通所している。	今後も通所を楽しみにいただけるよう活動プログラムを考え、安心できる環境づくりに努めてまいります。
	29	事業所の支援に満足していますか。	100%				とても満足している。	今後も安心してご利用していただけるよう、日々取り組んでまいります。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		あおぞらOlive				公表日	令和 8 年 2 月 22 日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	100%		ブレイルームでは家具等を減らし、広い空間を保っている。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	100%		法令遵守に基づいた人員配置を行っている。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	100%		ブレイルームや浴室、トイレ等すべての部屋のバリアフリー化を行っている。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	100%		トイレの空間や脱衣スペースを設けており、場合によっては移動できるようになっている。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	100%		脱衣所や別室で紙パンツの交換を行っている。状況によって部屋や場所を変えている。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	100%		毎日、出勤している職員全員でミーティングと振り返りを行い、話し合いの場を設けている。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%		ミーティングでの共有を行い、話し合いを行っている。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%		年に数回、管理者との面談を設けており、出た意見はミーティング等で都度話し合いを行っている。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	40%	60%		第三者による評価が行われていないため、外部の方からの評価の機会を設ける。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	100%		月に一度、県や市が主催している様々な研修に参加している。		
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	100%		5領域に基づく支援プログラムの作成を行い、公表している。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	100%		定期的なモニタリングを通してニーズや課題を分析し、計画を作成している。		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	100%		ミーティングでの共有を行い、話し合いを行っている。		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	100%		ミーティングでの共有を行っている。サポートブックでいつでも確認できるようになっている。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	100%		インフォーマルなアセスメントとして、日々の記録を用いて状況確認を行ったり、ミーティングや振り返りで話し合いを行ったりしている。	標準化されたフォーマルなアセスメントツールは使用していないため、導入について検討していく。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	100%		支援の項目を適切に設定し、移行支援や家族支援について、関係各所と連携を図りながら行っている。		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	100%		月ごとに立案者を変えており、立案後は職員全員で意見を出し合い決定している。		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	100%		年間行事や新しい活動を取り入れるようにしている。月や週で同じ活動、似た活動になっていないかチェックしている。		

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	100%			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	100%		毎日、支援開始前に職員全員でミーティングを行い、活動内容や役割分担の確認を行っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	100%		送迎業務終了後に振り返りの時間を設け、危なかったことや良かったこと等を話している。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	100%		日々記録や報告メール、振り返りノートに記録し、ミーティングや振り返りで改善点等の話し合いを行っている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	100%		半年に一度、モニタリングを行い、見直しを行っている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	100%		様々な活動を取り入れて支援を行っている。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	100%		ひとりひとりに合わせて活動を変更したりするなど、個性を伸ばせるよう工夫している。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	100%		管理者、利用者様、担当職員にて参画している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	20%	80%	月に一度、嘱託医に来ていただき健康チェックや情報共有を行っている。	地域の障害福祉や教育機関との連携が不十分のため、強化していく。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	100%		適切に行っている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	80%	20%	情報共有を行い、切れ目のない支援を行っている。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	100%		相談支援専門員を通して、支援内容の共有を行っている。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	20%	80%	地域の児童発達支援センターとの連携を図っていく。	研修をうける機会を設けていく。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		100%		他事業所との交流は行っているが、地域のこどもと交流する機会はほぼない。感染症やバリアフリー等の問題点も踏まえながら検討する。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	40%	60%		あまり参加できていないため、今後積極的に参加していく。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	100%		送迎時に日々の様子を聞いたり、デイでの様子を伝えたりしている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	60%	40%	重心の「家族の会」などの情報の提供をさせていただいている。	保護者様やご家族様のご意見を聞きながら、研修の機会を設けたり情報提供を行っている。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	100%		契約時に説明を行い、相談や質問にも答えている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	100%		半年に一度のモニタリングや送迎時に確認している。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	100%			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	100%		相談事には適切に応じ、職員間で共有や話し合いを行いながら真摯に対応している。	

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	20%	80%		コロナウイルス流行後から行われていない。保護者様のご意見も取り入れながら検討していく。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	100%			
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	100%		あおぞらOliveだよりを月に一度発行し、デイでの様子を発信している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	100%		個人情報の持ち出しは厳禁とし、シュレツダーでの処分を徹底している。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	100%		連絡ノートや個人LINEなどの情報伝達ツールを使用している。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		100%		地域との繋がりがほぼない。感染症やバリアフリー等の問題点も踏まえながら検討する。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	100%		事業所内での研修での周知に加え、外部講師による訓練も行っている。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	100%		年に3回、利用者様を含めて避難訓練を行っている。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	100%		服薬状況や発作時の対応等、モニタリング時に再度確認を行い、都度確認している。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	100%			
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	100%			
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	100%			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	100%		ヒヤリハット検討会を行っており、改善策の共有等を行いながら再発防止に努めている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	100%		虐待防止委員会の実施や外部講師による研修を行っている。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	100%		契約時に説明を行い、同意書への署名捺印をいただいている。		

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	あおぞらOlive		
○保護者評価実施期間	令和7年9月16日		～ 令和7年10月30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	11	(回答者数) 11
○従業者評価実施期間	令和7年9月16日		～ 令和7年9月25日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月12日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	入浴サービスを実施している。	ご契約時にご家庭での入浴方法を詳しく教えていただき、安心安全に入浴出来るようにしている。 衣服着脱の協力動作を引き出せるよう声掛けをしたり、洗体の練習もし、少しずつ出来ることを増やせるようにしている。	利用者様の日々の様子をスタッフ間で共有し、統一した介助をしていく。
2	重心だが外出の機会を設けたり、自事業所の畑があるため農業体験を通して、自然と触れ合うことが出来る。	車椅子やバギーでも利用しやすいお出かけ先を探している。 ベッドのあるトイレがあるか、バリアフリー化されているかなど、事前に確認を行っている。	事前の確認や準備をしっかりと行い、外出を楽しんでもらえるようにする。

3	スタッフと保護者様との連携がしっかり取れている。	送迎時に話す機会を設けたり、連絡ノートでもその日の様子をお伝えしている。 また電話やLINEも活用し、保護者様のご希望や困りごとに寄り添えるようにしている。	利用者様一人一人の様子や成長をミーティングや振り返りで共有し、どのスタッフでも把握しておくことで、信頼関係を構築していく。
---	--------------------------	---	---

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域との交流の機会が少ない。	重心ということもあり、コロナ等に感染した場合のリスクを考え、交流を控えていた。	公園や児童館に行く機会を増やしたり、地域の行事に参加する機会を設けていく。 感染症対策は継続する。
2	保護者様同士の交流の場が少ない。	以前は卒業生もお誘いして保護者会をしていたが、重心ということもあり、コロナ等に感染した場合のリスクを考え実施出来ていなかった。	保護者様同士の繋がりを求められている方もいらっしゃるの で、ご要望を聞きながら交流出来る機会を作っていきたい。